関西大学新報

発行所
関西大学新報社
大阪市大淀区長柄西1-3-22
電話(358)2271

2月1日
受験生号

社では、新入生歓迎号への寄稿、募集中！

II部大学の危機

梶村秀樹氏の講演をもとに

二月二九日公開学習会開催！

80年6月より現在まで、天六公開学講座は7回開催されている。この間、大学問題を取扱い、学内、学外を問わず多くの参加者を得ている。天六自主講座は、80年度学費大幅値上に抗して戦う中から、自らの大学を見直すために、教員・学生らで実行委員会をつくり、開催されている。

次回は、2月25日(木)に、昨年開催された梶村秀樹氏(神奈川大教員)の講演をもとに学習会を開催する。昨年関東地区を夜切りに開校される放送大学は、II部大学定時制への改悪攻撃としてあり、梶村氏の講演及び、参加者達にとって放置出来ない問題である。同実行委員会では、放送大学開校反対の声明を出すなど、活発な取組みをしている。受験生に対して、同実行委では学習会参加を呼びかけている。

女性差別との闘い

昨年7月に行なわれた天六学園祭で文化会写真部は「女性水着モデル撮影会」を強行しようとしたが、中学研究部・学研本部ら女性差別と闘う側によって実力阻止された。現在、写真部・文化会本部も実力阻止を正当と認め、女性差別問題と取り組むことを公言し、学園祭の事件は、表面上、終った、あとは中味、つまり、女性差別問題をいかに自らの問題としてとらえるのかが問われている。しかし、この事件の過程で、学友会執行委員長は、暴言をはき、また、女性差別と闘わない女子同好会も、「女性水着モデル撮影会」に差別を認めず、差別となるなら世の中のすべてが差別となると言いきってしまうなどヒドイものであった。女性差別問題は、私達の周りにどっぷりとつかり、その存在さえ見逃しがちである。ひとりひとりが考え行動していくのは当然とするが、多くの仲間と共に学び合い、行動していくことも大切なことである。

87年度定期学生大会不成立

87年度、自治委員の選出が5月に行なわれ、学友会執行委員会が発足し、6月の春期学大、12月の秋期学大と、定期学生大会は流会となり、執行委は学大多数を得れないまま現在に至っている。執行委の責任が問われているが、現執行委は責任を放棄している。それどころか、大学当局の手先化してしまっている。大学当局の口車にのせられ、80年度学費値上との取引きとされた、学生会館建築を当局の庭先で、こびくりまわしている。執行委の諸君よ、学生であることを想起せよ。

民族差別問題

依然進展ナシ！

三年以上の歳月をかけて出された民族問題に関する「答申」は、数ヶ月を過ぎた現在も、依然進展しないまま空転している。大学当局は、「答申」が出されて(昨年10月26日)、現在、各機関で検討中と言って、答申の中味を一切明らかにしないのである。実当局は何故、秘密にするのであろうか、そもそも答申される迄の過程を言えば、当時の学生の追求に端を発っしていたのに、現在、当局は教学サイドだけで、学生なんか関係なしである。当局関係者は、当時の学長自ら批判書を読み返し、早急に学生を含め、実のある民族差別問題への進展を、行動と共にかちとっていこうではないか。

天六へようこそ

受験生の皆さん、天六へようこそ。合格せんことを祈っております。しかし私達は、この言葉を文字どおり受けとってほしくないのです。というのも、現在の大学は、どの様な役割なのかを見のがしてはならないからです。君達が何故大学へ行こうとするのか、その理由は様々でしょう。しかし、大学進学者が3人に一人であり、君達はまさにそのひとりであるのです。大学受験の倍率がどうであれ、君達は、このひとりであり、社会全体には、あと二人いることになります。

このことは、現在の社会、つまり資本制社会の中で、上位に立つということです。大学序列のピラミッドの下位に属していようともやはりこのひとりであるのです。右へ右へ傾いて行く教育体制、そしてその中で君達がどう行動するか、社会の中に組みこまれた大学の役割を、どの様な形で自己にあてはめるかが問われているのです。今日までだけ登ってきた道はさぞ君達なりに大変だったでしょう。そしてこれから、自己を見直すべく、ここに大きな「宿題」を提起します。